

## 平成 30 年度 第 1 回 教育課程編成委員会(柔道整復学科)議事録

【日時】平成 30 年 9 月 19 日 (水) 18 時～19 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員 伊藤 述史 (公益社団法人東京都柔道整復師会 会長)  
小泉 利幸 (三進興産 営業部長)  
佐藤 和伸 (佐藤代田整骨院 院長) 計 3 名  
学校 奥田 久幸 (校長)  
岸本 光正 (副校長)  
木下 美聡 (フロンティア推進部長)  
伊藤 恵里 (副学科長) 計 4 名  
事務局 大友 員彦 (事務部長代行)  
小浜 悠樹 (教務グループ職員)  
柏 達也 (教務グループ職員) 計 3 名  
合計 10 名、敬称略

【欠席】委員 加瀬 剛 (キネシオ接骨院 院長)  
道狭 浩子 (ひろこ整骨治療室 院長) 計 2 名

### < 議題 >

#### 1. 日本医専の現状とこれから・意見の活用状況

昨年度の国試結果を報告した。

前回出た意見の振り返りをして、今年度の国試対策への取り組みとして J-up の説明をおこなった。

#### 2. 臨床実習について

1 年生の臨場実習について報告をおこなった。

学生目標・授業目標の説明をおこない、すでに終えた前期の振り返りをおこなった。

学生への実習時の評価項目について意見を求めた。

(委員からの意見・質問)

1 院あたり何人受け入れをしたのか？

(学校の回答)

2人から5人程度である。

小さいところだと、2人受け入れが限界だと感じている。

(委員からの意見・質問)

評価項目は良いと思う。

### 3. 人材育成、新人教育の共有について

学校として話し合った社会人基礎力について報告をおこなった。

委員の方からどのような人材育成をおこなっているかについて意見をいただいた。

(委員からの回答)

相手の求めているものを理解し、相手の立場に立って考えられる人材育成を目指している。

現場でその都度教えるようにしている。

場面によって対応が異なってくるので、場面を決めて指導していくやり方はどうか？

寸劇ではないが、学生同士お互いに評価をしあっておこなってはどうか？

(委員からの回答)

座学がメインだが、外部講師を招いておこなっている。

同期を集めて討論もおこなったりもしている。

物語、ストーリーを作って実施するのはどうか？

ポイントを教え、どうやったら学べるかを教えることが大事と考えている。

(委員からの回答)

元気よく返事やあいさつをし、先輩に色々聞きなさいと指導している。

相手の話を聞けることが大事だと考えている。

人柄の良い人は、人を呼び込める人だと思っている。

(委員からの意見・質問)

機能訓練指導の仕事が増えてくると思っている。

そのためには準備が必要である。

介護分野、機能訓練指導員の授業は必要と考えている。

以上

## 平成 30 年度 第 1 回 教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】平成 30 年 9 月 20 日（木） 14 時～15 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員	菊池 優子	（貴子鍼灸治療室 副院長）	
	前田 真也	（カリスタ株式会社 代表取締役）	
	前田 千尋	（カリスタ株式会社 院長）	
	鈴木 幸次郎	（日本内経医学会 運営委員）	計 4 名
学校	奥田 久幸	（校長）	
	岸本 光正	（副校長）	
	青木 春美	（学科長）	
	中村 幹佑	（学科教員、教務委員長）	
	渡邊 靖弘	（学科教員）	計 5 名
事務局	大友 員彦	（事務部長代行）	
	小浜 悠樹	（教務グループ職員）	
	柏 達也	（教務グループ職員）	計 3 名
	合計 12 名、敬称略		

【欠席】委員	藤原 良次	（株式会社アールエフ 代表取締役）	計 1 名
--------	-------	-------------------	-------

### < 議題 >

#### 1. 日本医専の現状とこれから・意見の活用状況

前回のいただいた意見の活用状況として、臨床実習について報告した。

補講体制や多文化交流会について説明をおこなった。

#### 2. 人材育成、新人教育の共有について

委員の方からどのような人材育成をおこなっているかについて意見をいただいた。

（学校からの意見・質問）

学校で教えてほしいことや卒業生ができていないと感じることがあれば教えていただきたい。

（委員からの回答）

あいさつはできていると思う。

人の話を聞き出すことが苦手と感じている。

そこを聞いてほしいというところがスルーされてしまう。

(学校からの意見・質問)

問診の目的がまだ理解できておらず、訓練が必要と感じている。

問診は東洋・西洋で分ける事も1つの方法と考えている。

トレーニングなどはおこなうのか？

(委員からの回答)

ロープレはおこなっている。

またトークスクリプトも作っている。

自然に言葉が出てくるように練習している。

お客様との会話を録音して、フィードバックする方法もおこなっている。

録音したものを書き写す方法もおこなっている。

順序立てて書かせ、改善点を探す研修もおこなっている。

(学校からの意見・質問)

客観視できることは良いと思う。

研修は外部の先生にお願いしているのか？その場合のテーマは何か？

(委員からの回答)

教育を外部の先生と一緒にやって頂くというイメージ。

外部の先生は2人いて、1人は教員免許を持っていて社会人基礎力などを教えてもらっていて、もう1人は臨床家の先生にお願いしている。

(委員からの意見・質問)

医療面接の授業はあるか？

(学校の回答)

授業の一部でおこなっている。

(委員からの意見・質問)

学生同士でロープレをおこなってはどうか？

様々な気づきに繋がっていくと思う。

(学校の回答)

臨床実習の中ではおこなっているが、その前にやりたいと感じている。

(学校からの意見・質問)

コミュニケーションの授業を取り入れたが、ご意見を頂き授業に活用したいと考えている。

(委員からの回答)

コミュニケーションの定義は難しく、あいまいと感じている。

個人的には3つあると思っており、目的意識・伝える力・聞く力と考える。

コミュニケーションの定義を教える授業はどうか？

話すばかりを意識してしまうが、聞く力も重要と考える。

プッシュとプルの研修はどうか？

また質問集を作成するのはどうか？

(委員からの回答)

見た目が症状のヒントに繋がる。

身体を触って得られる情報でコミュニケーションに繋げる事が大事。

(学校の回答)

患者様にヒアリングするだけではいけないと感じている。

学校のできる事はオーソドックスであり、どう患者様に聞き出すかが課題となっている。

(委員からの意見・質問)

理想像や目標が高い人は、コミュニケーションも技術も自分で学べていると感じる。

■学校側より1年生の授業内でおこなった将来像についての共有をおこなった。

(学校からの意見・質問)

ゴールが就職と考えている学生も少なくないと感じている。

(委員からの意見・質問)

自分で立てた目標に対して必要なことは何かを考えることが重要だと思う。

(学校の回答)

1、2年生で立てた目標を3年生で振り返るということをもっとおこなっていききたい。

以上

## 平成 30 年度 第 2 回 教育課程編成委員会(柔道整復学科)議事録

【日時】平成 31 年 2 月 13 日 (水) 17 時～18 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員 伊藤 述史 (公益社団法人東京都柔道整復師会 会長)  
加瀬 剛 (キネシオ接骨院 院長)  
小泉 利幸 (三進興産 営業部長)  
道狭 浩子 (ひろこ整骨治療室 院長) 計 4 名  
学校 奥田 久幸 (校長)  
岸本 光正 (副校長)  
伊藤 恵里 (副学科長)  
木下 美聡 (フロンティア推進部長)  
中村 幹佑 (教務委員長、鍼灸学科教員)  
鴨田 佳典 (柔道整復学科教員)  
森下 友雄 (柔道整復学科教員) 計 7 名  
事務局 大友 員彦 (事務部長代行)  
小浜 悠樹 (教務グループ職員)  
柏 達也 (教務グループ職員) 計 3 名  
合計 14 名、敬称略

【欠席】委員 佐藤 和伸 (佐藤代田整骨院 院長) 計 1 名

<議題>

### 1. 年間行事スケジュールの共有

今年度と来年度の年間行事スケジュールの共有をおこなった。

### 2. 今年度および来年度の国試対策について

今年度の状況と来年度の国家試験対策の取り組みについて報告をおこなった。

(委員からの意見・質問)

チューターとは何か？

(学校の回答)

教員以外の者で、補講などの学生の学習支援をおこなう。

専任教員の紹介で採用している。

(委員からの意見・質問)

成果はあったか？

今後も続けていくか？

(学校の回答)

12月の模試で成績がアップし、一定の成果があった。

今後も続けていく予定である。

(委員からの意見・質問)

早目早目の対策をうって、良いと思う。

学生の意欲を引き出すためにどのようにしているか？

(学校の回答)

些細なことでもほめるようにしている。

認めることから始めている。

(委員からの意見・質問)

実技でもそのようにしているのか？

(学校の回答)

柔道の授業でもそのようにしている。

(委員からの意見・質問)

ほめるだけではなく、ほめる+ $\alpha$ を検討すると、より良いと思う。

習慣づけが大事だと思う。

### 3. 臨床実習の指導者講習会について

指導者講習会について報告をおこなった。

#### 4. 臨床実習について

臨床実習についての報告をおこなった。

(委員からの意見・質問)

学生に対してのルール作りも大事だが、受け入れ側の治療院に対してのガイドラインもあった方が良いと思う。

(学校の回答)

今後は説明会の開催を検討していく。

その場で問題共有などをおこなっていく。

外部での臨床実習は、始まったばかりなので、ルール作りをしっかりとこなっていく。

#### 5. J-up、ゼミについて

J-up、ゼミについての報告をおこなった。

#### 6. 高等教育段階の負担軽減新制度に向けて

高等教育段階の負担軽減新制度に向けての内容報告をおこなった。

以上

## 平成 30 年度 第 2 回 教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】平成 31 年 2 月 14 日（木） 14 時～15 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員 菊池 優子 (貴子鍼灸治療室 副院長)  
前田 真也 (カリスタ株式会社 代表取締役)  
前田 千尋 (カリスタ株式会社 院長)  
藤原 良次 (株式会社アールエフ 代表取締役)  
鈴木 幸次郎 (日本内経医学会 運営委員) 計 5 名  
学校 奥田 久幸 (校長)  
岸本 光正 (副校長)  
青木 春美 (学科長)  
中村 幹佑 (教務委員長、鍼灸学科教員)  
亀谷 文人 (鍼灸学科教員)  
山中 直樹 (鍼灸学科教員)  
渡邊 靖弘 (鍼灸学科教員) 計 7 名  
事務局 大友 員彦 (事務部長代行)  
小浜 悠樹 (教務グループ職員)  
柏 達也 (教務グループ職員)  
伊藤 真紀 (教務グループ職員) 計 4 名  
合計 16 名、敬称略

< 議題 >

### 1. 年間行事スケジュールの共有

31 年度の年間行事スケジュールの共有をおこなった。

### 2. 授業外プログラムについて

授業外プログラム(中国語・4大ゼミ・古典ゼミ・養生ゼミ)についての報告をおこなった。

### 3. 中国研修について

過去の中国研修について報告をおこなった。

### 4. 今年度および来年度の国試対策について

今年度と来年度の国家試験対策の取り組みについての報告をおこなった。

(委員からの意見・質問)

昨年はこちらまでの取り組みをおこなっていなかったか？

(学校の回答)

ここまではおこなっていませんでした。

(委員からの意見・質問)

学生の満足度はどうか？

(学校の回答)

一定の満足度はあると思う。

ただ強制力がないので、出ない学生を出させることが課題となっている。

国試対策の質を高めて、参加率を上げていきたいと思っている。

(委員からの意見・質問)

参加率はモチベーションが大切だと思うので、当院では、内定者グループを作ってモチベーションの維持を保っている。

働くイメージをわかせることで、絶対国家試験に合格したい気持ちが強くなる。

参考になればと思う。

(学校の回答)

おっしゃるとおり、モチベーションの維持は課題と感じているので、参考にさせていただきたいと思う。

(委員からの意見・質問)

社会人が多いので、モチベーションは高いのではないかと？

(学校の回答)

学生が参加しやすいように時間帯の改善はできたが、モチベーションはコントロールが難しいと感じている。

(委員からの意見・質問)

卒業後に活躍できるイメージを持たせることが大事だと思う。

臨床の現場の話を聞くのはどうか？

実際患者さんがどう改善されたかなどのお話を交えて、ケースを伝える。

(学校の回答)

参考にしていききたいと思う。

今後は臨床実習を外部でもやっていきたいと考えている。

目的をしっかりと作り込んでやっていききたいと思う。

(委員からの意見・質問)

1、2年生の対策は別におこなっているのか？

(学校の回答)

次の議題で申し上げる。

## 5. 早期国試対策について

1、2年生を対象とした早期国試対策についての報告をおこなった。

(委員からの意見・質問)

強制力やペナルティーはないのか？

(学校の回答)

強制力は無くやペナルティーは、課していない。

参加率をあげる努力をしていきたい。

(委員からの意見・質問)

モチベーションの維持のために、1、2年生から早期国試対策は良いと思う。

学生たちのなぜ？や不思議に思っていることを気付いてあげることが大事だと思う。

## 6. 高等教育段階の負担軽減新制度に向けて

高等教育段階の負担軽減新制度に向けての取り組みの報告をおこなった。

以上